

## 海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	石橋一樹
所属機関	広島大学大学院医系科学研究科
・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名	United European Gastroenterology Week 2025
渡航期間	自 2025 年 10 月 3 日 至 2025 年 10 月 8 日
・研究内容 ・国際学会・会議内容	Impact of Genetic Mutations and Mild Inflammation on Colorectal Tumorigenesis
<p>研究成果（要約：800 字）</p> <p>2025 年 10 月にベルリンで開催された United European Gastroenterology Week (UEGW 2025) に参加し、私は大腸癌発生における遺伝子変異と炎症の関係に関する研究成果を発表した。発表では、APC および KRAS 変異を有するマウスモデルに一過性の DSS 誘導炎症を付加することで腫瘍形成が著明に促進されることを報告し、短期間の炎症刺激でも発癌リスクが高まる可能性を示した。</p> <p>発表では、「炎症の時間的ダイナミクス」や「上皮内在性シグナルの持続性」に関する質問を受け、特に DSS 投与後の免疫細胞動態やサイトカイン発現の変化を時系列で追跡する重要性が指摘された。また、炎症が APC 遺伝子の Loss of heterozygosity や KRAS-ERK シグナル活性化を誘発する可能性についても議論がした。</p> <p>近年注目されている腸内細菌叢と免疫微小環境の相互作用に関するセッションでは、炎症誘導モデルの発癌促進機構をマイクロバイオーム解析と統合的に理解する重要性が強調され、今後の研究の方向性を考える上で大いに刺激を受けた。</p> <p>本学会を通じて、炎症・遺伝子変異・腸内環境という三者の連関を多角的に解析することの重要性を再認識し、今後は空間的・時間的解析を組み合わせた研究へ発展させたいと考えている。</p>	

